



Sun Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1 管理ガイド

概念と使用法

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054,
U.S.A. 650-960-1300

Part No. 817-5596-10

2004 年 4 月, Revision A

著作権と商標について

Copyright © 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. (以降「サン・マイクロシステムズ株式会社」または「サン」とします)は、本書で説明している製品に取り入れられている技術に関する知的所有権を有しています。これらの知的所有権には、特に、<http://www.sun.com/patents>に記載されている 1 つまたは複数の米国特許権、ならびに米国およびその他の国における 1 つまたは複数のその他の特許権または出願中の特許申請が含まれていることがあります、これらに限定されません。

本製品およびそれに関連する文書は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することを禁じます。

フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、Independent JPEG Group、FreeType Project、および Catharon Typography Project の作業に基づいています。

Portions Copyright 2000 SuSE, Inc. Word for Word Copyright © 1996 Inso Corp. International CorrectSpell spelling correction system Copyright © 1995 by Lernout & Hauspie Speech Products N.V. All rights reserved.

本製品のソースコードの一部は、<http://www.mozilla.org/>、<http://www.jclark.com/>、and <http://www.gingerall.com>にある Mozilla Public License から入手できます。

Sun、Sun Microsystems、サンのロゴマーク、Java、Solaris、StarSuite、蝶のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、および StarSuite のロゴマークは、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. の商標もしくは登録商標です。

UNIX は、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。Screen Beans および Screen Beans のクリップアート キャラクターは、A Bit Better Corporation の登録商標です。International CorrectSpell は Lernout & Hauspie Speech Products N.V. の商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software - Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本書は「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含む、明示的ないし黙示的ななんらの保証も行われぬものとします。ただし、これが法に触れる場合は、この限りではありません。

目次

1 はじめに	5
この文書で使用されるマークについて	5
2 概念	7
データ構造	7
構成設定の作成	9
ポリシーグループ	10
3 使用法	11
ログイン	11
ユーザーインターフェース	13
マストヘッド	13
ナビゲーション区画	14
「ユーザー」ページ	15
組織団体ツリーのナビゲーション	15
検索	17
検索結果の扱い方	19
「ホスト(複数)」ページ	20
「ドメインツリー」ページ	20
ポリシーリポジトリ	22
コンテンツ区画	26
「ポリシー」見出しページ	26
システムパス	27
「ポリシー」テーブル	27
ポリシー	28
「ポリシーグループ」見出しページ	30
ポリシーグループの追加と削除	30
「割り当て先」見出しページ	31
「役割」見出しページ	32
「ユーザー」見出しページ	32
レポート	33
レポートの作成	33
「レポート」ウィンドウ	34
ポリシーパッケージ	36
ポリシーパッケージのインストール	36
ログアウト	37
ヘルプ	37

4 付録 39

使用事例 39

背景 39

シナリオ 1 40

作業 — アプリケーションの起動を禁止する 40

ソリューション — アプリケーションの機能をロックする 40

シナリオ 2 41

作業 — 分散されたプロファイルを管理する 41

ソリューション — 新しいポリシーグループを作成して設定する 41

シナリオ 3 43

作業 — ローミングユーザーにソリューションを提供する 43

ソリューション — プロキシの設定値を変更する 43

用語集 44

はじめに

この文書で使用されるマークについて

このマニュアルでは、3種類のマークを使用して役立つ情報を示します。



「重要」マークは、データやシステムのセキュリティに関する重要な情報を表します。



「ノート」マークは、追加情報を表します。たとえば、ある操作を実行するための別の方法を示します。



「ヒント」マークは、より効率的な方法でプログラムを実行するための説明を表します。

概念

Sun Java™ Desktop System Configuration Manager は、ユーザーが実行しているアプリケーションまたはそのホストマシンに基づいてデスクトップアプリケーションの構成設定を中央で管理することのできるツールです。Java Desktop System Configuration Manager によって管理者は、組織の階層構造のさまざまな要素について、構成設定を表示したり割り当てたりできます。特定のアプリケーションに対応する 1 組の構成設定値を設定ポリシーといい、これらのポリシーをポリシーグループとしてまとめて、企業組織のさまざまな部分 (下部組織またはユーザー) やデスクトップコンピュータ (ホスト) の階層構造の各部分に割り当てることができます。

設定ポリシーが適用されるのは、Configuration Manager の管理対象であるデスクトップセッションまたはアプリケーションをユーザーが開始したときです。アプリケーションを実行するユーザーまたはホストに関連するすべてのポリシーグループが検索され、その設定値がアプリケーションのローカルデフォルトおよびユーザーのカスタム設定値と統合されます。ポリシーを使用することによって、中央で管理している一連のデフォルトをアプリケーションに与えたり、必須の設定値を強制的に設定したりできます。

データ構造

Configuration Manager では、「ツリー」とも呼ばれる 3 つの異なる階層構造を扱います。Configuration Manager のユーザーインターフェースを理解するには、次の 3 つのツリーを区別することが重要になります。

最初の 2 つのツリーは、組織およびドメインのツリーです。組織のツリーは、下部組織などの組織単位とユーザー間の関係を表します (ツリーの最上位レベルは組織そのものであり、下位レベルはたとえば、部門、下部部門などであり、最下位レベルは部門のメンバーです)。ドメインのツリーは、ドメイン、ホストといったネットワーク要素間の関係を表します (ツリーの最上位レベルはネットワーク全体であり、下位レベルは各種サブネットなどであり、最下位レベルはサブネット内の実際のマシンです)。

Configuration Manager では、LDAP サーバーの内容を解釈することによってこれらのツリーを取得します。LDAP サーバーは、企業の組織構造に関する代表的なリポジトリです。LDAP の組織ツリーの各位置をエンティティといいます。LDAP サーバーのエントリは、Configuration Manager が認識する組織エンティティに対応づけられます。具体的には「組織」「役割」「ユーザー」「ドメイン」、および「ホスト」です。このプロセスの詳細は『Sun Java™ Desktop System Configuration Manager インストールガイド』を参照してください。

3 つめのツリーは構成ポリシーツリーです。表示や編集の便宜を考慮して構成設定値を編成するために使用します。階層の最上位レベルは通常、アプリケーションです。下位レベルはアプリケーションのさまざまなコンポーネントまたはモジュール (および下位コンポーネント、下位モジュール) に対応し、最下位レベルは実際の構成設定です。同様の表現方法は、StarSuite™ または Mozilla™ の設定値など、多数の設定値を扱うさまざまな設定システムに見られます。たとえば、ホームページの設定は、Mozilla 「設定」ダイアログの Navigator/ホームページの下になります。

設定ポリシーは、組織またはドメイン構造の任意の要素に割り当てることができます。その結果、「ツリーからなるツリー」が2つできます。1つはポリシーツリーを含む組織ツリー、もう1つはポリシーツリーを含むドメインツリーです。この構造を図1の「ツリー」に示します。

Configuration Manager インターフェースの汎用構造を使用することによって、管理者は組織またはドメインツリーの要素を選択し、ポリシーグループを選択した要素に割り当て、さらにポリシーを編集できます。

組織ツリーとドメインツリーを使用した作業の考え方は同じです。この2つの大きな違いは、組織ツリーがユーザーで構成され、ドメインツリーがホストで構成されることです。ユーザーとホストを2つの別のツリーで管理することにより、**Configuration Manager** でユーザーベースの管理とホストベースの管理を提供することができます。2つのツリーは似ているため、このマニュアルでは組織ツリーを中心に説明し、組織ツリーとドメインツリーとの間に違いが存在する場合にのみドメインツリーに言及します。

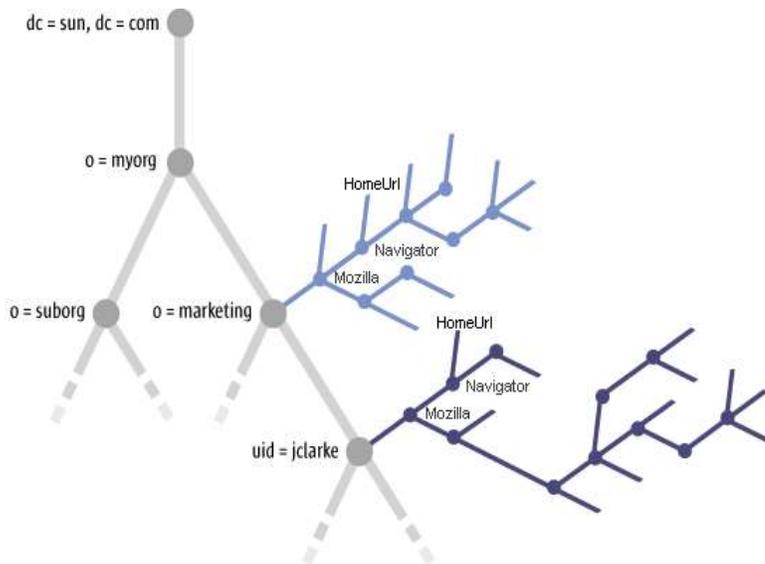


図1 ツリー

構成設定の作成

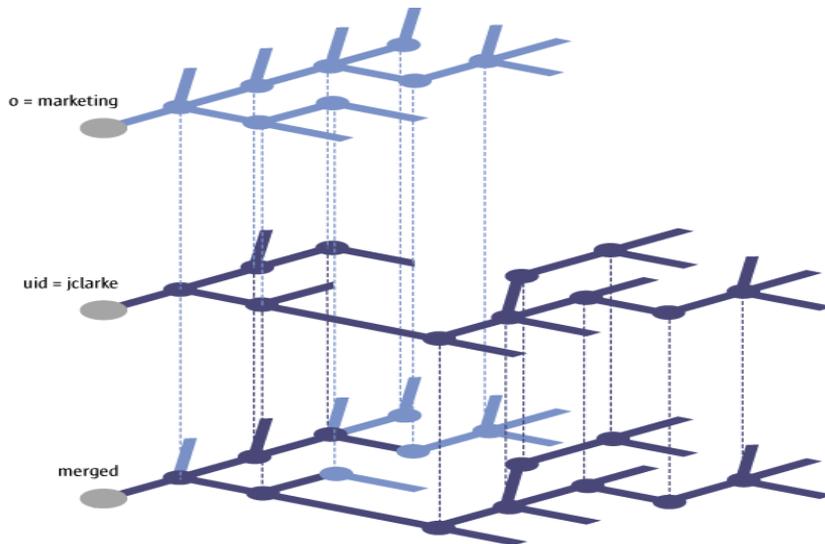


図 2 結合

特定のエンティティの構成設定は、そのエンティティに適用可能なすべての構成ポリシーを結合することによって得られます。この中には、エンティティそのものの設定ポリシーとともに、親エンティティの設定ポリシーも含まれます。たとえば、あるユーザー用の設定値では、そのユーザーに割り当てられたポリシーとともに、そのユーザーが所属している組織に割り当てられたポリシーが考慮されます。結合は継承によって行われます。つまり、ユーザーは組織構造の上位レイヤーで指定された設定値を継承します。継承した設定値は、ユーザーに割り当てられたポリシーによって、ユーザーレベルで変更できます。このプロセスを図 2「結合」に示します。「marketing」組織がメンバーであるユーザー「jclarke」によってどのように継承されるか、ユーザー「jclarke」のポリシーによって継承された設定値の一部がどのように変更されるかがわかります。

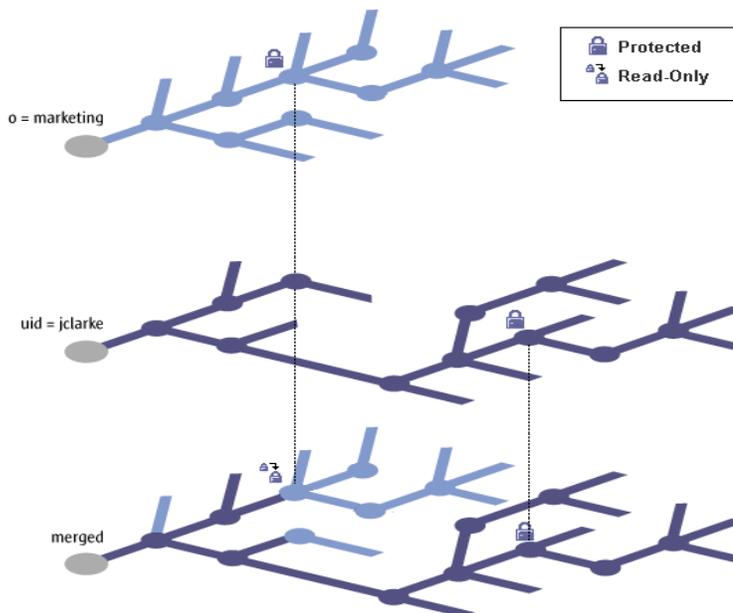


図 3 保護

ポリシーの一部の要素を保護すると、継承された設定値が継承の下位レベルによって上書きされないようにできます。この処置により、管理者は後続ポリシーで、またはデスクトップ上で稼働している管理対

象アプリケーションでは変更できない、必須の設定値を定義できます。このプロセスを図 3「保護」に示します。「marketing」に対応する設定が保護されているので、結合してもユーザー「jclarke」のポリシーで指定された値は無視され、デスクトップアプリケーションで使用できる読み取り専用の値が表示されます。

ポリシーから得た設定値は、次のルールに従って、クライアントアプリケーションのローカル構成と統合されます。

- 保護されていないポリシー設定値は、ローカルなユーザー設定がない場合にデフォルトとして使用されます。
- 保護されているポリシー設定値は、ローカルな必須設定がない場合に適用されます。

ポリシーグループ

管理者は次の 2 通りの方法で、特定のエンティティに設定ポリシーを設定できます。

- エンティティにポリシーグループを割り当てる
- エンティティの現在のポリシーを変更する

ポリシーグループは、固有の名前で識別されるポリシーのコンテナであり、**Configuration Manager** でリンクを作成することによって、組織ツリーまたはドメインツリーの任意のエンティティに割り当てることができます。こうすると、ポリシーを再利用しやすくなります。ポリシーグループはインポート/エクスポート可能なので、メンテナンスが容易です。

管理者はたとえば「新入」社員または「ドメインコントローラ」ホストに適した設定値からなるポリシーを作成して 2 つのポリシーグループに格納し、この記述に対応する組織ツリーまたはドメインツリーのすべての要素にそれらのポリシーグループを割り当てることができます。

使用法

ログイン



Configuration Manager には、Netscape™ 4.7、Internet Explorer 5.0、または Mozilla 1.0 以上が必要です。

Configuration Manager を使用するには、まず Sun™ Web Console にログインします。Sun Web Console は管理アプリケーションの標準ログインページです。すべての管理アプリケーションのユーザーインターフェースは統一されています。

1. Sun Web Console にアクセスするには、ブラウザに次の URL を入力します。
https://<hostname>.<domainname>:6789。この場合、<hostname>.<domainname> はセットアップ手順で指定したサーバー名です。
例: https://myserver.mycompany.com:6789
2. Sun Web Console のログインページで LDAP のユーザー名とパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックします。

認証が正しく行われると、Sun Web Console にセッションのオープニングページが表示されます。ログインエラーがあった場合は、ログインページに戻り、エラーの原因が表示されます。

ユーザー名とパスワード用のテキストフィールドの上に、ログインしたサーバーが表示されます。
3. Configuration Manager を起動するには 「Sun Java™ Desktop System Configuration Manager, Release 1」のリンクをクリックします。Configuration Manager セッションが開始されます。
4. 新しいウィンドウで Configuration Manager を起動する場合は「各アプリケーションを新しいウィンドウで開く」のボックスを選択します。

ログイン後、Web Console の起動ページを経由しないで、Configuration Manager アプリケーションに直接アクセスする場合は、Web Console のサーバーソフトウェアがインストールされているホストの URL を入力します。次の形式でホスト名、ドメイン、ポート、さらに Configuration Manager のファイル名を指定します。



https://<ホスト名>.<ドメイン名>:6789/apoc



Sun™ Web Console について

Sun Web Console は、Sun Microsystems 製品用に共通の Web ベースの管理ソリューションを提供する目的で設計されました。Sun Web Console は管理アプリケーションを 1 箇所から起動できる場所です。すべての管理アプリケーションに一貫性のあるユーザーインターフェースが与えられます。

Sun Web Console は Web モデルに基づいているので、システム管理者はブラウザを使用して、各自の管理アプリケーションにアクセスできます。

Sun Web Console が提供する機能は次のとおりです。

- 共通の認証と承認
 - 共通のログ
 - すべての管理アプリケーションに対して、同じ HTTPS ベースのポートを経由する単一のエン트리ポイント
 - 共通の外観と使用感
-

ユーザーインターフェース

Configuration Manager のほとんどのページは、次の 3 種類の区画で構成されます。

- マストヘッド (一番上)
- ナビゲーション区画 (左)
- コンテンツ区画 (右)

さらに、ダイアログまたはオンラインヘルプを呼び出すと、別のブラウザウィンドウが開きます。

マストヘッド



図 4 Configuration Manager のメインウィンドウ

マストヘッドには、一般的なリンクが多数あります。マストヘッドの上部には、5 つのリンクからなるユーザーリテリバーがあります (左から右)。

- 「コンソール」リンクをクリックすると、Sun Web Console の起動ページに戻ります。
- 「バージョン」リンクをクリックすると、Configuration Manager のバージョン情報を表示したウィンドウが開きます。
- 「ポリシーパッケージ」リンクをクリックすると、ポリシーパッケージのインストールと削除を行うことができる「ポリシーパッケージ」ページが表示されます (「ポリシーパッケージ」を参照)。
- 「ログアウト」リンクをクリックすると、Sun Web Console、つまり Configuration Manager からログアウトし、「ログイン」ページに戻ります。
- 「ヘルプ」リンクをクリックすると、オンラインヘルプのページが表示されます。

マストヘッドの下部には、次の情報が表示されます。

- 製品名の Sun Java™ Desktop System Configuration Manager
- 現在ログインしているユーザーの名前
- サーバー名
- Sun Microsystems のロゴ

ナビゲーション区画



図 5 ナビゲーション区画

ナビゲーション区画を使用すると、ユーザーとホストの両方のエンティティツリーに対して、管理者は次の作業ができます。

- エンティティツリーを表示する
- ポリシーリポジトリを表示する
- ポリシーリポジトリのポリシーグループを管理する

ナビゲーション区画には「ユーザー」と「ホスト」という 2 つの見出しページがあります。以下、それぞれの見出しページについて詳しく説明します。

「ユーザー」ページ

「ユーザー」ページでは、組織ツリーを表示し、組織ツリーに対応するポリシーグループを管理できます。さらにサブ見出しとして「組織団体ツリー」と「ポリシーリポジトリ」があります。

組織団体ツリーのナビゲーション

系統パスまたはナビゲーションテーブルを使用して組織ツリーを表示できます。

系統パス

系統パスは「ユーザー」ページの一番上にあります。現在のエンティティまでのパスが表示される領域です。系統パス内のパス要素は、対応するエンティティへのリンクになっています。ただし、現在のエンティティを示す最後のパス部分だけは例外で、通常のテキストとして表示されます。

系統パスを使用して移動するには、リンクをクリックします。系統パスのポイント先がクリックしたエンティティになり、ナビゲーションテーブルにそのエンティティのサブエンティティが含まれるように、ナビゲーション区画が更新されます。そのエンティティと関連付けられた設定ポリシーデータにより、コンテンツ区画も更新されます。

ナビゲーションテーブル

ナビゲーションテーブルは系統パスの下に位置し、現在のエンティティのサブエンティティが一覧表示されます。「名前」列には、現在のエンティティの全サブエンティティの名前が含まれています。「タイプ」列には、エンティティのタイプが表示されます。「アクション」列には、各行の「表示」リンクが含まれています。

エンティティが組織または下位の役割を伴う役割の場合、表示された名前をクリックすると、次の動作が実行されます。

- 選択したサブエンティティが、現在のエンティティになります。
- 系統パスのポイント先が新しい現在のエンティティになり、ナビゲーションテーブルにそのエンティティのサブエンティティが含まれるように、ナビゲーション区画が更新されます。
- そのエンティティと関連付けられた設定ポリシーにより、コンテンツ区画が更新されます。

エンティティは「組織団体名」「ユーザー」、または「役割」のいずれかのタイプにすることができます。

ナビゲーション区画で現在のエンティティを変更しないで、指定したエンティティの詳細を表示する場合は、「表示」リンクをクリックします。選択した行の背景色が青に変わり、選択したエンティティに対応するデータが含まれるようにコンテンツ区画が更新されます。

背景が青の行は、現在コンテンツ区画でデータが表示されているエンティティを表します。

ナビゲーションテーブルの一番上には「フィルタ」ドロップダウンメニューと「拡張フィルタ」アイコンがあります。テーブルに含まれているエントリが10を超える場合  は「全データをページング」アイコンが表示されるので、テーブルエントリ表示を変更できます。

「フィルタ」ドロップダウンメニューで、ナビゲーションテーブルに表示するエンティティのタイプを選択できます。選択肢は次のとおりです。

- 「全項目」は、ナビゲーションテーブルにある全タイプのエンティティを表示します。
- 「組織団体名 (複数)」は、ナビゲーションテーブルにあるタイプ「組織団体名」のエンティティのみを表示します。
- 「ユーザー」は、ナビゲーションテーブルにあるタイプ「ユーザー」のエンティティのみを表示します。
- 「役割」は、ナビゲーションテーブルにあるタイプ「役割」のエンティティのみを表示します。

拡張フィルタ



図 6 「拡張フィルタ」ダイアログ

拡張フィルタ機能によって、ユーザーは表示するエンティティのタイプを定義できます。

1. ナビゲーションテーブルの最上部にある「拡張フィルタ」アイコンをクリックし、ダイアログを表示します。 
2. 「タイプ」セクションで、フィルタリングの対象にするエンティティのタイプをマークを付けます。特定性の強いフィルタが必要な場合は「名前」テキストフィールドに名前を入力します。「名前」テキストフィールドでは、ワイルドカードとしてアスタリスク (*) を使用できます。
3. ダイアログの下部にある「フィルタ」ボタンをクリックして、フィルタを実行します。

検索

この機能を使用すると、ユーザーは組織ツリーを検索し、特定のエンティティタイプやエンティティ名を表示することができます。検索できるエンティティタイプは次のとおりです。

- 組織
- 役割
- ユーザー

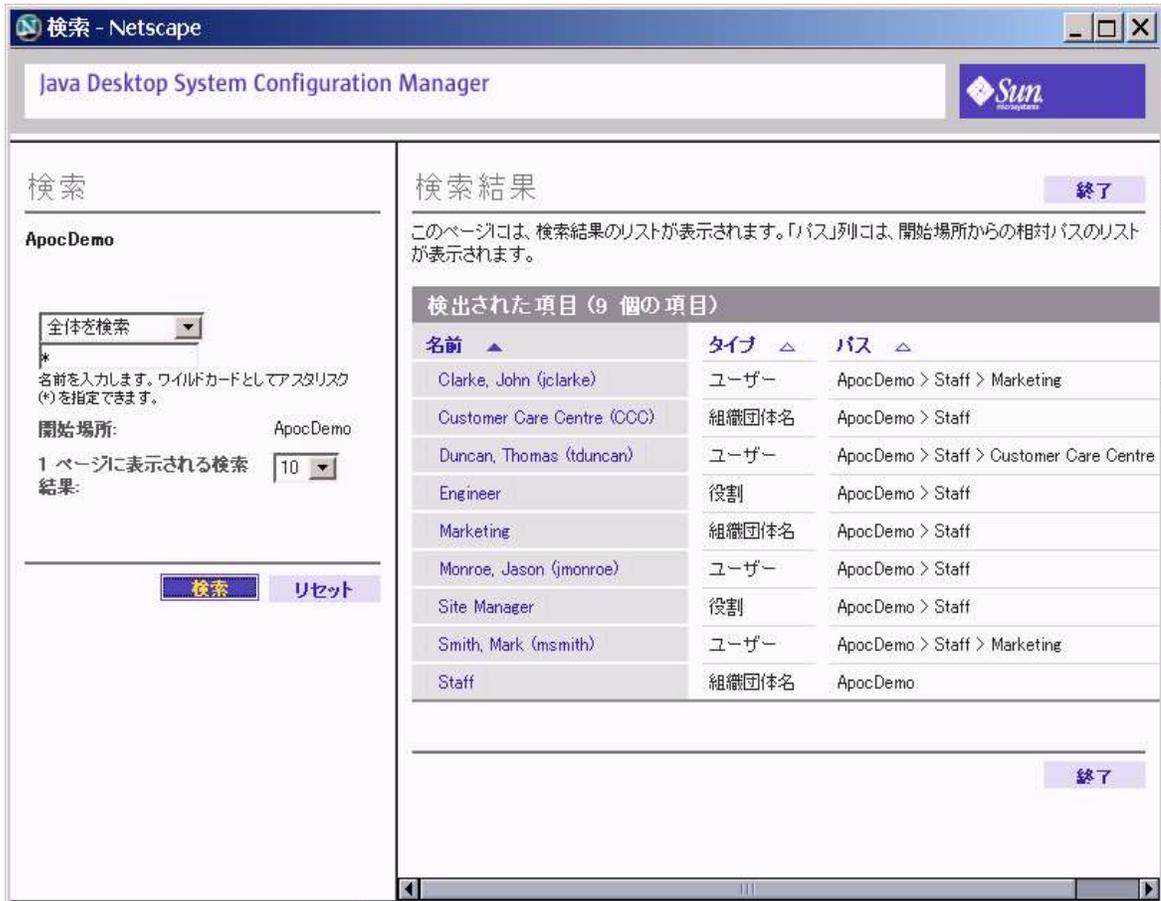


図7 「検索」ウィンドウ

エンティティを検索するには以下の手順を行います。

1. ナビゲーション区画で「検索」ボタンをクリックします。

「検索」ウィンドウが表示されます。「検索」ウィンドウにはマストヘッドが含まれ、左側にはパラメータ領域があり、右側には結果領域があります。パラメータ領域では最上部に系統パスが表示され、現在のエンティティへのパスがわかります。



バックグラウンドで「検索」ウィンドウを開いた状態で、メインウィンドウのナビゲーション区画の「検索」ボタンをクリックすると、「検索」ウィンドウが最上位のウィンドウになります。「検索」ウィンドウのパラメータ領域の系統パスによって示される「検索」ウィンドウの現在のエンティティが更新されます。その他のすべてのパラメータと結果領域の内容は変更されません。

2. 系統パスの下のリストボックスから、該当するエンティティタイプを選択します。

3. カテゴリの結果をさらに絞り込むには、カテゴリタイプごとに利用できる検索フィールドに文字列を入力します。

フィルタ文字列のデフォルトは「すべて」を意味する * (アスタリスク) です。検索フィールドに入力する文字列の中では、アスタリスクをワイルドカードとして使用できます。



検索では大文字小文字が区別されません。

4. 検索の開始位置を特定するには 「開始場所」セクションからオプションを選択します。

どのオプションを選択した場合でも、組織ツリーの詳細な検索が開始されます。検索の開始位置には相違があります。ルートからの検索は組織ツリーの先頭から開始され、他の位置からの検索はツリーのその位置から開始されます。

システムパスで任意のパス要素をクリックすると、検索の現在位置が選択したエンティティに変更されます。

5. 「1 ページに表示される検索結果」 リストボックスから、表示する結果数を選択します。

6. 「検索」 ボタンをクリックします。

検索が完了すると、結果領域に検索結果を示した表が表示されます。

7. 別の検索を開始する場合、または現在の検索パラメータを消去する場合は、パラメータ領域にある「リセット」 ボタンをクリックします。

検索結果の扱い方

検索結果			終了
このページには、検索結果のリストが表示されます。「パス」列には、開始場所からの相対パスのリストが表示されます。			
検出された項目 (9 個の項目)			
名前 ▲	タイプ ▲	パス ▲	
Clarke, John (jclarke)	ユーザー	ApocDemo > Staff > Marketing	
Customer Care Centre (CCC)	組織団体名	ApocDemo > Staff	
Duncan, Thomas (tduncan)	ユーザー	ApocDemo > Staff > Customer Care Centre	
Engineer	役割	ApocDemo > Staff	
Marketing	組織団体名	ApocDemo > Staff	
Monroe, Jason (jmonroe)	ユーザー	ApocDemo > Staff	
Site Manager	役割	ApocDemo > Staff	
Smith, Mark (msmith)	ユーザー	ApocDemo > Staff > Marketing	
Staff	組織団体名	ApocDemo	
			終了

図 8 検索結果表

検索の実行後 「検索」ウィンドウの結果領域に結果表が表示されます。この表は3列で構成されます。

- 名前: エンティティ名が示されます。
- タイプ: エンティティタイプが示されます。
- パス: エンティティまでのパスが示されます。パスの起点は、検索の開始地点です。

エンティティタイプ「ユーザー」を検索した場合、結果表に4つめの列として「ユーザー ID」が表示されません。



該当する列見出しの横の矢印をクリックすると、結果を並べ替えることができます。たとえば、タイプ別に並べ替える場合は 「タイプ」列の横の矢印をクリックします。

結果を表示するには「名前」列で対応する名前をクリックします。Configuration Manager のメインウィンドウが前面に表示されます。コンテンツ区画にそのエンティティと関連付けられた設定ポリシーが表示されます。ナビゲーション区画でもエンティティが青で強調表示されます。

「ホスト (複数)」 ページ



図9 「ホスト (複数)」 ページ

「ホスト (複数)」ページのエンティティに対応づけられた構成設定は、ホストベースの設定に使用します。

クライアント側では、ユーザー名に基づいて、組織ツリーからユーザーベースの構成設定を取得します。ホストベースの構成設定は、ユーザーが使用しているホストのIPまたはホスト名に基づいて、ドメインツリーから取得します。

ホストベースの構成設定を提供することによって、ネットワーク環境に依存する設定値を容易に設定できます。代表的な例は、ユーザーベースの設定が1つあるが、それでは使用しているホストに応じた最適なプロキシ設定を使用できないローミングユーザーの場合などです。

「ホスト (複数)」ページには「ドメインツリー」見出しと「ポリシーリポジトリ」見出しという名前の、2つのサブ見出しがあります。

「ドメインツリー」 ページ



図10 「ドメインツリー」 ページ

「ドメインツリー」には、ユーザーが作業を行うホストの構成設定が表示されます。「ホスト (複数)」見出しをクリックすると、デフォルトで表示されます。

ドメインツリーのナビゲーションは、組織ツリーのナビゲーションと同様です。15 ページの「組織団体ツリーのナビゲーション」を参照してください。

「ドメインツリー」ナビゲーションテーブルのアクションバーには「フィルタ」ドロップダウンメニューがあります。メニュー項目は次のとおりです。

- 「全項目」: 全タイプのエンティティが表示されます。
- 「ドメイン (複数)」: タイプドメインのエンティティが表示されます。
- 「ホスト (複数)」: タイプホストのエンティティが表示されます。

拡張フィルタ

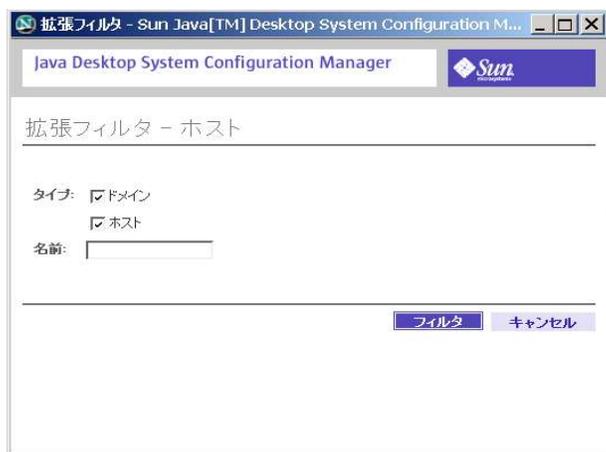


図 11 「拡張フィルタ」ウィンドウ

「拡張フィルタ」アイコンをクリックすると「拡張フィルタ」ウィンドウが表示されます。機能は組織ツリーの拡張フィルタと同様です (16 ページの「拡張フィルタ」を参照)。ドメインツリーの拡張フィルタでは、「ドメイン」と「ホスト」の2つのエンティティでフィルタ処理を実行できます。

ドメインツリーの検索

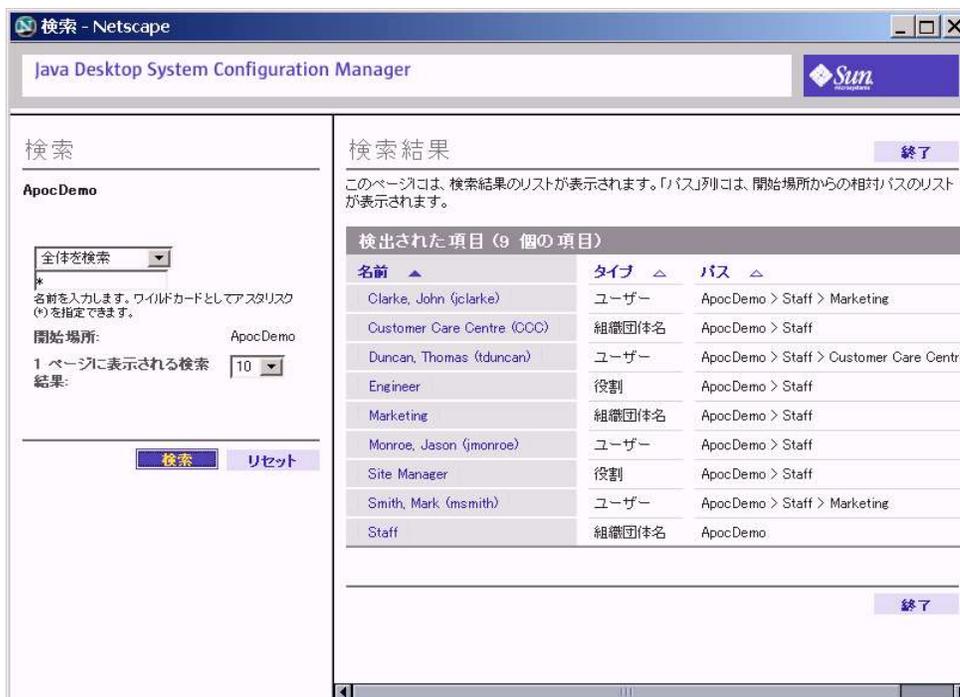


図 12 「検索」 ウィンドウ

「ドメインツリー」見出しの「検索」ボタンをクリックすると「ドメイン検索」が表示されます。ドメイン検索の機能は、組織ツリーを検索する場合と同様です (17 ページの「検索」を参照)。

ポリシーリポジトリ



図 13 「ポリシーリポジトリ」見出し

「ポリシーリポジトリ」見出しは「ユーザー」見出しと「ホスト (複数)」見出しの両方の下にあります。

ポリシーリポジトリは、ユーザーポリシーグループまたはホストポリシーグループの一方のコンテナです。ポリシーグループは、順序付けされたリストに編成されています。順序は、優先順位により定義されます。

ポリシーグループテーブル



図 14 ポリシーグループテーブル

ポリシーグループテーブルはページの最上部に存在し、ポリシーグループを一覧表示します。この表は3列で構成されます。選択の列「名前」、それに「優先度」です。

選択列は、「ポリシーグループのアクション」ドロップダウンメニュー内のアクションを示す行にマークを付けるために使用します。

ポリシーグループのナビゲーション

ポリシーグループに移動するには「名前」列で対応する名前をクリックします。選択した行の背景色が青に変わり、選択したポリシーグループに対応するデータが含まれるようにコンテンツ区画が更新されます。

「優先度」列には、ポリシーグループの優先順位が含まれています。管理者が1つのエンティティに複数のポリシーグループを関連付けている場合、ポリシーグループの結合順序の定義には、優先順位を使用しません。

背景が青の行は、現在コンテンツ区画でデータが表示されているポリシーグループを表します。

ポリシーグループのアクションバー

ポリシーグループのアクション ドロップダウンメニューには次のアクションが含まれています。

名前	アクション
新規作成	ユーザーがポリシーグループの (固有の) 名前を入力する、ダイアログウィンドウが開く。「OK」をクリックすると、ポリシーグループが追加される。変更を反映するため、ナビゲーション区画が更新される。
削除	ポリシーグループ (複数可) の削除を確認する警告メッセージが表示される、ポップアップウィンドウが開く。ユーザーが「OK」をクリックすると、ポリシーグループが削除される。変更を反映するため、ナビゲーション区画が更新される。
インポート	ダイアログウィンドウが開き、ユーザーはインポートするポリシーグループ (複数可) を選択する。「OK」をクリックするとポリシーグループが追加され、変更を反映するためナビゲーション区画が更新される。
エクスポート	ダイアログウィンドウが開き、ユーザーは選択したポリシーグループ (複数可) のエクスポート先である宛先パスを入力する。
名前の変更	ダイアログウィンドウが開き、ユーザーはポリシーグループの新しい (固有の) 名前を入力する。ポリシーグループの名前が変更され、変更を反映するためにナビゲーション区画が更新される。
優先度の編集	優先順位を変更するためのリストボックスが含まれる、ダイアログウィンドウが表示される。

ポリシーグループの優先順位

ポリシーグループの優先順位の概念により、レイヤーの結合順序を定義することができます。あるエンティティに複数のポリシーグループが割り当てられている場合、結合時にポリシーグループの優先順位が使用されます。このような場合、エンティティの階層を指定するだけではポリシーグループの結合順序を決定することはできません。この問題は、ポリシーグループに優先順位を割り当てることで解決できます。

ポリシーグループの優先度ダイアログを表示するには、ポリシーグループのアクションドロップダウンメニューから「優先度の編集」を選択します。



図 15 「ポリシーグループの優先度」ウィンドウ

ポリシーグループの優先順位を変更するには、次の手順で行います。

1. リストからポリシーグループを選択します。
2. 「上へ」ボタンまたは「下へ」ボタンをクリックして、優先順位の上下を変更します。

コンテンツ区画



図 16 コンテンツ区画

コンテンツ区画には、ナビゲーション区画で選択したエンティティまたはポリシーグループに関連付けられたデータが表示されます。データは見出しページごとにまとめられており、コンテンツ区画の最上部で対応する見出しをクリックすることによってアクセスできます。ナビゲーション区画で行う選択により、コンテンツ区画で表示される見出しの数とタイプが決定します。

「ポリシー」見出しページがデフォルトのアクティブな見出しページです。選択の中に現在アクティブな見出しページが含まれる限り、ナビゲーション区画で選択を変更しても、現在アクティブな見出しページはアクティブなままになります。それ以外の場合は「ポリシー」見出しページがアクティブな見出しページになります。見出しページが再びアクティブになると、見出しページの内部状態(系統パス、並べ替え順序)は元に戻ります。

「ポリシー」見出しページ



図 17 「ポリシー」見出し

各「ポリシー」ページに「レポートの作成」ボタンがあります。このボタンを使用すると、レポート機能にアクセスできます。詳細および手順は、33 ページの「レポート」を参照してください。

「ポリシー」ページには「ポリシー」テーブルがあり「設定を空にする」ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、選択したエンティティの現在のポリシーに定義されている構成設定が、対応するサブポリシーを含めてすべて削除されます。このボタンをクリックすると、このアクションの結果についてユーザーに知らせる、モード警告ダイアログが最初に表示されます。

設定ポリシーツリーの各ルートエントリは、Mozilla などのアプリケーションを表します。アプリケーションの下のツリーは、そのアプリケーションに割り当てられた構成設定で編成されています。

系統パス

系統パスは、見出しの下にあるページの最上部に表示されます。系統パスは、設定ポリシーツリーの現在の位置を表示し、その機能は、ナビゲーション区画内の系統パスと同じです (15 ページの「系統パス」の節を参照)。

「ポリシー」テーブル



ポリシー - 新しいポリシーグループ

このページは、設定ポリシーツリーと選択した項目の設定が表示されます。

[レポートの作成](#) [設定を空にする...](#)

ポリシー (4 個の項目)	
名前 ▲	コメント
Evolution 1.4	Evolution 1.4 Information Management ツールの設定を指定します。
Gnome 2.2	Gnome 2.2 デスクトップ環境の設定を指定します。
Mozilla 1.4	Mozilla 1.4 Web ブラウザの設定を指定します。
StarSuite 7	StarSuite 7 統合オフィスツールの設定を指定します。

図 18 「ポリシー」テーブル

「サブグループ」テーブルは、系統パスの下にあります。このテーブルには、設定ポリシーツリーの現在の位置のサブグループが一覧表示され、2 列あります。「名前」と「コメント」です。

「名前」列には、設定ポリシーツリーの現在の位置の全サブツリーの名前が含まれています。名前はリンクとして表示されます。

設定ポリシーツリーを移動するには、名前のリンクをクリックします。コンテンツ区画が更新され、系統パスが設定ポリシーツリーの新しい場所を示します。さらに「ポリシー」テーブルが表示されます。

「コメント」列には、サブグループの簡単な説明が含まれています。

ポリシー

ポリシーの設定はコンテンツ区画の「ポリシー」ページに表示されます。

<input checked="" type="checkbox"/>	ステータス	名前	値
<input type="checkbox"/>		プレビュー区画	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
<input type="checkbox"/>		プレビュー区画のサイズ (ピクセル)	144
<input type="checkbox"/>		スレッドされたメッセージリスト	<input type="checkbox"/> 使用する
<input type="checkbox"/>		メッセージを「あとで読む」としてマークする (ミリ秒)	1500
<input type="checkbox"/>		動画イメージを表示する	<input checked="" type="checkbox"/> 使用する
<input type="checkbox"/>		削除されたメッセージを取り消し線付きで表示する	<input type="checkbox"/> 使用する
<input type="checkbox"/>		イメージの読み込みについて	<input checked="" type="radio"/> インターネットからは画像を読み込まない <input type="radio"/> 差出人がアドレス帳に載っているときだけ画像を読み込む <input type="radio"/> 常にインターネットから画像を読み込む

図 19 「ポリシー」ページ

データは、テーブル形式で表示されます。テーブルは4列からなります。選択アイコンが表示される選択列「ステータス」列「名前」列、および「値」列です。テーブルのアクションバーにはドロップダウンアクションメニューがあります。

要素に対してアクションを実行するには以下の手順を行います。

1. 該当する要素の選択列で「チェックボックス」を選択します。
2. 「ポリシーのアクション」ドロップダウンメニューからアクションを選択します。全アクションの説明の表を、次に示します。

アクション	操作
保護	選択した要素を保護対象に設定する。
保護解除	選択した要素の保護を削除する。
デフォルトの適用	アプリケーションのデフォルトを使用する。
設定を空にする	現在のエンティティの要素内に格納されているデータを削除する。

要素名の左側には2つのアイコンがあり、その要素のステータスを表示します。次の表は、アイコンとその機能の概要を説明したものです。

アイコン	意味	操作
	このアイコンは、要素の値が組織ツリーのこのレベルで設定されたことを表す。	—
	このアイコンはリンクでもあり、要素の値が組織(またはドメイン)ツリーのより上位のレベルで設定されたことを表す。ユーザーに表示される値は、組織内でのレイヤー(つまりエンティティレベル)の結合の結果である。	アイコンをクリックすると、その値が設定された場所へ移動する。
	このアイコンは、要素の保護が組織(またはドメイン)ツリーのこのレベルで設定されたことを表す。保護は、組織ツリーと設定ポリシーツリーの両方に渡って継承される。	—
	このアイコンはリンクでもあり、要素の保護が組織(またはドメイン)ツリーのより上位のレベルで設定されたことを表す。この要素または項目の保護は、組織内でのレイヤー(つまりエンティティレベル)の結合の結果である。	このアイコンをクリックすると、ユーザーは保護が設定された場所へ移動する。

データ値は「値」列の値を変更することで変更できます。値の変更だけでなく、ステータスの変更も保存する必要があります。保存するには 「保存」 ボタンをクリックします。

セット



図 20 新しい特性の追加

通常「ポリシー」見出しページの内容と構造は静的なので、特定のサブグループでは特性とセクションの数が規定されていて、ユーザー側では変更できません。大部分の管理作業に不都合はありませんが、アプリケーションによっては項目リストを管理するので、ユーザー側で項目を追加したり削除したりできます。Configuration Manager の場合は、同様の機能を提供するために「セット」があります。セットによって、ユーザーは実行時に特性の追加または削除が可能です。

セットに要素を追加するには、次の手順で行います。

1. 「新規作成」ボタンをクリックします。
2. ダイアログからは、新しい要素の名前を入力できます。その要素が追加され、メインウィンドウが更新されます。
3. メインウィンドウでは、その新しい要素を編集できます。
4. 変更を永続的なものにするには 「保存」 ボタンを明示的にクリックする必要があります。

セットから要素を削除するには、要素を選択して「削除」ボタンをクリックします。



1つのセットに1つ以上のセットを含めることもできます。セットを編集するには、リストのセット名をクリックします。

「ポリシーグループ」見出しページ

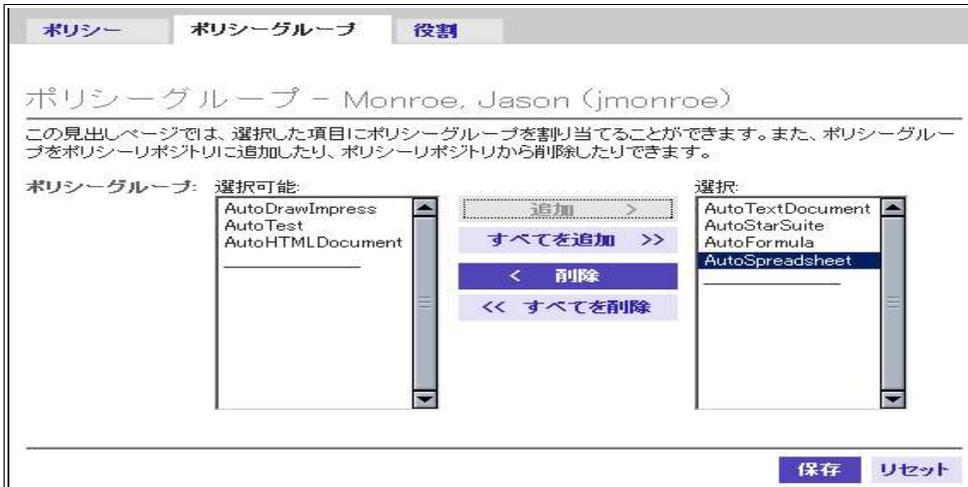


図 21 「ポリシーグループ」見出しページ

ナビゲーション区画でエンティティが選択されている場合、コンテンツ区画に「ポリシーグループ」見出しページが含まれます。この見出しページでユーザーは、選択されているエンティティに対してポリシーグループを追加したり削除したりできます。

左側のリストに、現在エンティティに割り当てられていない、利用可能なポリシーグループが表示されます。右側のリストには、現在エンティティに割り当てられているポリシーグループが表示されます。1つ以上の項目を選択することによって、管理者はエンティティに対してポリシーグループの追加または削除ができます。

ポリシーグループの追加と削除

左側の「選択可能」リストに表示されているポリシーグループを追加するには、次の手順で行います。

1. 「選択可能」リストから、エンティティに追加するポリシーグループを1つまたは複数選択します。
2. 「追加」ボタンをクリックして、選択したポリシーグループを、右側の「選択」リストに追加します。
3. 「保存」をクリックして、新しい割り当てを保存します。

エンティティからポリシーグループを削除するには、次の手順で行います。

1. 「選択」リストで、エンティティから削除するポリシーグループを1つまたは複数選択します。
2. 「削除」ボタンをクリックして、選択したポリシーグループを削除します。
3. 「保存」をクリックして、永続的な削除にします。

「すべてを追加」ボタンまたは「すべてを削除」ボタンをクリックすることによって、選択したエンティティに対してすべてのポリシーグループを追加または削除することもできます。

「割り当て先」見出しページ



図 22 「割り当て先」見出しページ

ナビゲーション区画の「ポリシーリポジトリ」見出しページでポリシーグループが選択されている場合、コンテンツ区画には「割り当て先」見出しページが含まれます。「割り当て先」ページには、選択したポリシーグループの割り当て先であるすべてのエンティティが表示されています。

「割り当て先」見出しページに対して実行できるアクションは、次のとおりです。

- 「削除」ボタンは、選択したエンティティ (複数可) と、ナビゲーション区画で選択したポリシーグループとの間の関連付けを解除します。
- 「選択」列を使用して、削除する行を選択します。
- 「名前」列のエンティティをクリックするとナビゲーション区画が更新され、クリックしたエンティティが、ナビゲーション区画で背景が青のエンティティになります。
- 「タイプ」列には、エンティティのタイプが表示されます。エンティティは「組織」「ユーザー」、または「役割」のいずれかのタイプにすることができます。
- 「パス」列には、組織ツリーまたはドメインツリー内のエンティティまでのパスが表示されます。

「役割」 見出しページ



図 23 「役割」 見出しページ

ナビゲーション区画でタイプ「ユーザー」のエンティティを選択し、そのユーザーが少なくとも1つの役割のメンバーである場合、コンテンツ区画には「役割」見出しページが含まれます。「役割」ページには、選択したユーザーがメンバーであるすべての役割が表示されます。

このページには「名前」および「パス」の2つの列があります。「名前」には役割の名前が含まれ、「パス」には役割への絶対パスが含まれています。

「ユーザー」 見出しページ



図 24 「ユーザー」 見出しページ

ナビゲーション区画で役割が選択されていて、なおかつその役割が1以上のユーザーに割り当てられている場合、コンテンツ区画には「ユーザー」見出しページが含まれます。「ユーザー」ページには、選択した役割のメンバーであるユーザーがすべて表示されます。

「ユーザー」テーブルには列が2つあります。「名前」および「パス」です。「名前」列にはユーザー名が含まれ、「パス」列にはそのユーザーへの絶対パスが含まれます。絶対パスが表示されるのは、現在のエンティティの下にはないメンバーが役割に割り当てられている可能性があるからです。

レポート

レポートは、データを含むすべての構成設定の、読み取り専用ビューです。レポートを呼び出すには「レポートの作成」ボタンをクリックします。「レポートの設定」ダイアログが表示されます。



図 25 「レポートの設定」ダイアログ

「レポートの設定」ダイアログを使用すると、次のカスタマイズが可能です。

- いずれのツリー (組織ツリーとドメインツリー的一方または両方) を対象とするか (「レポートに使用」)
- 作成するレポートでいずれの列を表示するか (「ステータスパス」と「説明」を無効にできます)

レポートの作成

1. コンテンツ区画の該当するウィンドウで 「レポートの作成」ボタンをクリックします。

「レポートの設定」ダイアログが表示されます。

2. 次のオプションの設定をカスタマイズします。

「組織団体ツリー」テキストフィールドには、ナビゲーション領域で現在選択されている組織のメンバー (組織、ユーザー、または役割) への絶対パスを指定します。

「ドメインツリー」テキストフィールドには、ナビゲーション領域で現在選択されているドメインメンバー (ドメインまたはホスト) への絶対パスを指定します。

「レポートに使用」領域のラジオボタンを使用して、レポートで使用する構成設定を指定します。組織ツリーのメンバーの構成設定、ドメインツリーのメンバーの構成設定、または2つの設定の組み合わせを使用できます。後者の主な用途は、管理者がマシン「b」でユーザー「a」の設定を表示できるようにすることです。ラジオボタングループのデフォルトの選択状態は、ナビゲーション区画で選択した見出しによって異なります。「ユーザー」見出しを選択した場合、デフォルトで「組織団体ツリーの設定」が選択されます。「ホスト」見出しを選択した場合、デフォルトで「組織団体ツリーの設定」が選択されます。



コンテンツ区画の「ポリシー」見出しページにポリシーグループの構成設定が表示されているときに、「レポートの作成」ボタンをクリックした場合、上記のユーザーインターフェース要素はどれも表示されません。他のメンバーと組み合わせたポリシーグループのレポートを作成しても無意味だからです。ポリシーグループのレポートには、必ず、選択したポリシーグループに基づいた構成設定のみが含まれます。

チェックボックスの「ステータスパス」と「説明」を使用して「レポート」ウィンドウの「ステータスパス」列と「説明」列の表示を切り替えます。

3. 「レポートの作成」ボタンをクリックして「レポートの設定」ダイアログを閉じます。

カスタマイズの完了後、レポートをクリックすると、選択したデータの読み取り専用ビューが表示されます。

「レポート」ウィンドウ

「レポート」ウィンドウは、保存と印刷が簡単にできるように最適化されたブラウザウィンドウです。したがって、レポートページではイメージは使用されません。

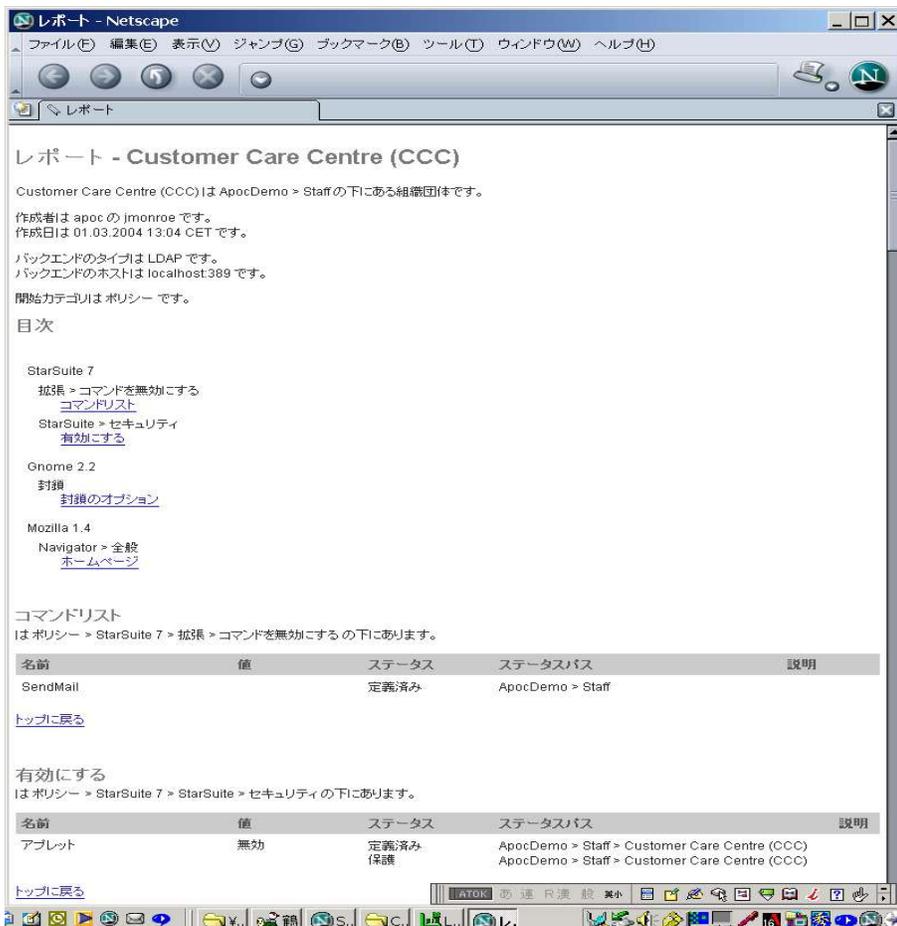


図 26 「レポート」ウィンドウ

レポートの主要な要素は次のとおりです。

- メインヘッダー
- 環境情報
- 目次
- 構成設定が指定されたテーブル

メインヘッダーには「レポート-」の文字列に続いて、そのレポートを作成するために使用された組織とドメインのメンバー名が表示されます。

環境情報には、使用された組織/ドメインメンバー、作成者、作成日、バックエンドタイプ、ホストとその位置、さらに開始サブグループが含まれます。

目次には、このレポートの構成設定が含まれているテーブルを示すリンクがコンパクトに並べられます。

構成設定が含まれるテーブルは、サブグループ単位にまとめられます。表示されるのは、該当する組織またはドメインのメンバーの構成設定が1つ以上含まれるサブグループだけです。各テーブルには、番号、サブグループ名、サブグループの位置を示したタイトルが付けられます。番号はサブグループの位置を表します。レベルごとに追加番号が表示されます。各番号の値は、そのレベルに指定されているサブグループの数を表します。

表そのものは次の列で構成されます。

- 「名前」: 構成設定の名前が示されます。
- 「値」: 構成設定の値が示されます。
- 「ステータス」: 構成設定のステータスが示されます。表示される文字列は2種類「定義済み」または「保護」です。「定義済み」は、この構成設定に値が与えられていることを意味します。「保護」は、下位レイヤーでは変更できない構成設定であることを意味します。構成設定に値が与えられている場合は、つねに「定義済み」ですが、構成設定は値を与えなくても保護できます。
- 「ステータスパス」(任意): ステータスが設定されたパスが示されます。
- 「説明」(任意): 構成設定の簡単な説明が示されます。

読みやすくするために、奇数行の背景は明るい色になります。各テーブルの後ろに「トップに戻る」リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、目次が再表示されます。

ポリシーパッケージ

マストヘッドの「ポリシーパッケージ」リンクをクリックすると、新しいダイアログ ウィンドウが表示されます。



図 27 「ポリシーパッケージ」 ウィンドウ

「ポリシーパッケージ」ウィンドウには、現在インストールされているポリシーパッケージが表示されます。Configuration Manager には、StarSuite、Evolution、Mozilla および Gnome の、4 つのインストール済みパッケージが付属します。このダイアログウィンドウを使用すると、ポリシーパッケージのインストール/アンインストールを行うことができます。ポリシーパッケージには、設定ポリシーのテンプレート、ユーザーインターフェースをローカライズするためのリソースファイル、および HTML ヘルプファイルが含まれています。

3 列からなるテーブルが 1 つあります。選択列「名前、それに「日付の追加」です。選択列は、アクションバーに表示されるアクションの適応対象である、1 つまたは複数の行の選択に使用します。「名前」列には、インストールされたポリシーパッケージの名前が含まれています。デフォルトでは、インストール時に Agent Configuration パッケージを含めて 5 つのパッケージが組み込まれます。「日付の追加」列には、インストールの日付および時刻と、データの基準であるタイムゾーンが含まれています。日時の形式は、ロケールによって異なります (02/24/2003、24.02.2003 など)。

ポリシーパッケージのインストール

「サーバーからインストール」ボタンをクリックすると、サーバーのファイルシステムからインストールするパッケージファイルの位置を指定する「サーバーファイルからポリシーパッケージをインストール」ダイアログが表示されます。

「クライアントからインストール」ボタンをクリックすると、クライアントのファイルシステム上のパッケージの場所を示すパスを入力できる「ローカルファイルからポリシーパッケージをインストール」ダイアログが表示されます。

これら 2 つのダイアログのいずれかで有効な場所を指定し、アクションを確認した後、これらのダイアログは閉じられ、パッケージがインストールされます。インストールに成功すると、パッケージはポリシーパッケージのテーブルに表示されます。

ポリシーパッケージをアンインストールする場合は「アンインストール」ボタンをクリックします。選択したポリシーパッケージの削除を確認するダイアログが表示され、「選択」列で選択したポリシーパッケージのアンインストールを反映させて、パッケージテーブルが更新されます。

ログアウト

マストヘッドの「ログアウト」リンクをクリックし、Configuration Manager セッションを終了します。

ヘルプ

ナビゲーション時には、いつでも次の3種類のヘルプを利用できます。

- メインヘルプには、マストヘッド右上の「ヘルプ」リンクをクリックしてアクセスします。独立したブラウザウィンドウが表示されます。



図 28 「ヘルプ」ウィンドウ

コンテンツ区画内で移動する場合、ヘルプ機能はコンテキスト型です。「ヘルプ」をクリックすると、現在の見出しページに対応するセクションまで、ヘルプページがスクロールされます。

- インラインヘルプを利用すると、作業中の特定の項目について、簡単な説明が得られます。説明は各ページの最上部に表示されます。

インラインヘルプは必要に応じて、構成設定の説明や使用できる値のタイプも提供します。

- すべてのグラフィカルイメージとリンクは、下に ツールチップ (ツールのヒント) が表示されます。ツールチップを表示するには、イメージまたはリンクの上にマウスを置きます。

付録

使用事例

背景

国際的な企業である Magic Insurance, Inc. は、社内のデスクトップ環境全体を Windows NT から Java Desktop System (JDS) の Gnome デスクトップに移行させることにしました。この会社はさらに、主要なワープロを Microsoft Word から StarSuite Writer に、主要なブラウザアプリケーションを Internet Explorer から Mozilla に切り替えたいと考えていました。

会社の IT 管理者である John ができるかぎり簡単に移行できるように作業を監督します。John は移行支援として、JDS が提供する Configuration Manager を使用することにしました。John は手始めに、Configuration Manager で対処すべき社内の 3 つの問題を検証しました。

- Customer Care Center (CCC) 部門の責任者の要望に答えて、CCC の社員がコンピュータゲームを起動できないようにします。
- 各部門に「専門家」と「初心者」のサブディビジョンを作り、それぞれに異なる構成設定を用意します。このサブディビジョンには、経験豊富な社員と新入社員がそれぞれ含まれます。
- 世界各地にひんぱんに出張しなければならない Company Services Center (CSC) の社員に、ソリューションを提供します。

シナリオ 1

作業 — アプリケーションの起動を禁止する

John は CCC の社員がコンピュータゲームを起動できないようにしたいと考えています。

ソリューション — アプリケーションの機能をロックする

Configuration Manager で、会社の LDAP ツリーの CCC 組織に、CCC 部門で働く社員の名前が登録されています。John は Gnome の「アプリケーションの起動制限」機能を利用して「使用できるアプリケーション」リストからあらゆるゲームを削除することになりました。

社員は各自のクライアントマシンでこの設定を変更できるので、John は CCC 組織で設定を保護することになりました。その結果、この設定は CCC 組織の全メンバーに対して読み取り専用になります。

手順

1. ナビゲーション区画で「ユーザー」見出しをクリックし、「組織団体ツリー」で「CCC」を検索します。
2. 「CCC」組織の横の「アクション」列で 「表示」をクリックします。
3. コンテンツ区画で「ポリシー」見出しをクリックし、「Gnome 2.2」をクリックし、さらに「封鎖」をクリックします。
4. 「アプリケーションの起動」を選択します。
5. 「使用できるアプリケーション」を選択します。
6. 「使用できるアプリケーション」のテキストボックスで、ゲームを選択し「削除」をクリックします。
7. 対応するチェックボックスをマーキングすることによって「使用できるアプリケーション」を選択します。
8. 「封鎖のオプション」列の最上部にある「ポリシーのアクション」ボックスで「保護」を選択します。
9. 「保存」をクリックします。

シナリオ 2

作業 — 分散されたプロファイルを管理する

各部門に「Experts (専門家)」と「Novice Users (初心者)」のサブディビジョンを作り、それぞれに異なる構成設定を用意することにしました。

ソリューション — 新しいポリシーグループを作成して設定する

John は「Novice」と「Expert」という 2 つのポリシーグループを作成することにしました。さらに、各ポリシーグループに値を設定し、各グループをそれぞれのサブディビジョンに割り当てます。こうすれば、一方のポリシーグループをあとで変更したとしても、ポリシーグループが割り当てられているサブディビジョンのすべてに、変更が自動的に適用されます。John はサブディビジョンからポリシーグループを削除することもできます。

John が初心者に対して無効にしなければならない機能は 3 つあります「ツール」メニューの「設定」と「オプション」というサブメニュー、それに StarSuite のマクロを実行する能力です。



使用できるコマンドの全リストについては 『StarSuite 管理ガイド』の付録を参照してください。

手順

「Novice」ポリシーグループに値を設定する手順は、次のとおりです。

1. ナビゲーション区画で「ユーザー」見出しをクリックし、続いて「ポリシーリポジトリ」をクリックします。
2. 「ポリシーグループのアクション」ボックスで「新規作成」を選択します。
3. テキストボックスに Novice を入力し、「OK」をクリックします。
4. コンテンツ区画で「ポリシー」見出しをクリックし、「StarSuite 7」をクリックし、「StarSuite」をクリックし、さらに「セキュリティ」をクリックします。
5. 「マクロの実行」を選択し、「値」ボックスで「しない」を選択します。
6. 「保存」をクリックします。
7. 「ポリシー」、 「StarSuite 7」、 「拡張」、 「コマンドを無効にする」の順に移動します。
8. 「コマンドリスト」テーブルで「新規作成」をクリックします。
9. テキストボックスに「ConfigureDialog」を入力し、「OK」をクリックします。
10. 「コマンドリスト」テーブルで「新規作成」をクリックします。
11. テキストボックスに「OptionsTreeDialog」を入力し、「OK」をクリックします。
12. ナビゲーション区画の組織ツリーで「Novice ユーザー」を検索します。
13. 「Novice ユーザー」組織の横の「アクション」列で「表示」をクリックします。
14. コンテンツ区画で「ポリシーグループ」見出しをクリックし、「Novice」をクリックし、さらに「追加」をクリックします。
15. 「保存」をクリックします。

ポリシーグループ「Novice」を追加すべき「Novice ユーザー」のサブディビジョンごとに、12 から 15 までの手順を繰り返します。

「Expert」ポリシーグループに値を設定する手順は、次のとおりです。

1. ナビゲーション区画で「ユーザー」見出しをクリックし、続いて「ポリシーリポジトリ」をクリックします。
2. 「ポリシーグループのアクション」ボックスで「新規作成」を選択します。
3. テキストボックスに Experts を入力し 「OK」をクリックします。

Experts の設定値はデフォルトなので、必要な手順はこの 3 つだけです。

シナリオ 3

作業 — ローミングユーザーにソリューションを提供する

ユーザーがログインするホストに応じて、Mozilla ブラウザのプロキシ設定を変えます。たとえば、北米のホストで稼働しているブラウザには、ヨーロッパのホストで稼働しているブラウザとは異なるプロキシ設定が必要です。

ソリューション — プロキシの設定値を変更する

このシナリオでは、ユーザー名に基づいて Mozilla のパーソナル設定を保存し、ホスト固有の値は IP ベースの設定として保存します。どちらも中央 LDAP サーバーに保管します。さらに、LDAP ツリーにはすでに「North America」ドメインと「Europe」ドメインが含まれており、対応するホストがそれぞれのドメインメンバーとして登録されています。John は、使用するホストに応じて、これら 2 つのドメインの Mozilla について、プロキシの設定を変更するのが最良のソリューションだと考えました。

手順

1. ナビゲーション区画で「ホスト (複数)」見出しをクリックし、ドメインツリーで「North America」を検索します。
2. 「North America」ドメインの横の「アクション」列で「表示」をクリックします。
3. コンテンツ区画で「ポリシー」見出しをクリックし、「Mozilla 1.4」をクリックし、「拡張」をクリックし、さらに「プロキシ」をクリックします。
4. 「システムのプロキシの設定を使用する」行の「値」列で「Enable」チェックボックスの選択を解除します。
5. 「インターネットにアクセスするためのプロキシの設定」行の「値」列で「手動プロキシ設定」を選択します。
6. 「HTTP プロキシ」行の「値」列で「proxy.NorthAmerica.com」を入力します。
7. 「HTTP ポート」行の「値」列で「8080」を入力します。
8. 「保存」をクリックします。

プロキシ名「proxy.Europe.com」と HTTP ポート「9090」を使用して「Europe」ドメインに関して 1 から 8 までの手順を繰り返します。

必要であれば、プロキシの設定を保護することによって、設定の変更を禁止することもできます。

用語集

A

APOC (A Point Of Control) : Sun Java™ Desktop System Configuration Manager の社内コード名。

C

Configuration Manager Agent : ネットワーク上の管理対象資源に配置されるモジュール。設定ポリシーの要求およびキャッシュが可能です。

L

LDAP : Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)。LDAP は TCP/IP 上で動作するディレクトリサービスプロトコルです。LDAP の詳細は、RFC 1777 の「The Lightweight Directory Access Protocol」で定義されています。

え

エージェント : 「Configuration Manager Agent」を参照。

エンティティ : 設定データを割り当てることのできる論理オブジェクト。Configuration Manager が認識するエンティティの例は、ユーザー、役割/グループ、組織などです。

け

結合 : クライアントは設定データを要求するときに、エンティティのコンテキスト(ユーザー、役割、組織など)に従って要求します。エンティティにデータを提供するには、設定クライアントがまずレジストリレイヤーから関連データを読み込み、コンテキストに従ってエンティティに属すレイヤーに到達するまで、順番にレイヤーのカスタマイズを適用していきます(組織の階層構造を使用してレイヤーとその優先順位を判別します)。クライアントは役割/グループとユーザーのエンティティを意識するだけですみます。

せ

設定ポリシー : Configuration Manager とその中心製品の動作を制御するルールまたは 1 組のルール。

設定ポリシーグループ : 設定ポリシーグループは設定ポリシーで構成され、組織、グループ、ユーザー、またはホストと結合させることができます。設定ポリシーグループは設定ポリシーリポジトリに保管されます。

設定ポリシーテンプレート (**CPT**) : ポリシーを形成する構成設定のデータ保管場所、データを表示するユーザーインターフェースの説明、そのデータの制約を集めたものが収められている XML ファイル。

設定ポリシーリポジトリ : 設定ポリシーグループを保管するコンテナ。

ほ

ポリシー : 「設定ポリシー」を参照。